

Data (2022年6月現在)

所在地 〒113-0033

東京都文京区本郷 7-3-1

スタッフ 吉岡京子 (准教授)、本田千可子 (助教)、  
松本博成 (助教)

URL chiikikango.m.u-tokyo.ac.jp/

左から、本田、  
吉岡、松本

## 東京大学大学院医学系研究科 健康科学・看護学専攻

地域看護学分野

### History and Now

#### どのような機関なのでしょう？

東京大学医学部衛生看護学科は、全国で2番目の4年制大学内の看護系学科として1953（昭和28）年に設置されました。1964（昭和39）年に全国初の看護学系大学院修士課程として設置された衛生看護学修士課程が、健康科学・看護学専攻へ改称された1992（平成4）年に地域看護学講座が新設されました。2022年は講座創設30年目の節目に当たり、日本で最も歴史の長い看護学の教育・研究機関の一つとしてその一翼を担っています。

### Education

#### どのような教育をしていますか？

当教室では「地域で看護する」と「地域を看護する」を推進するために、研究・教育・社会貢献を通して健康・生活等に関する課題の持続可能な解決を目指し、2014（平成26）年度から大学院修士課程での保健師養成を開始しました。

1年目は一般修士課程や公衆衛生看護学の講義・演習・実習を通して研究と実践への応用の基本を学び、2年目に修士論文に取り組みます。特に1年目の実習では、研究的思考や研究手法を用い、現場と話し合いながら地域の課題解決を目指す「実践的研究」や、複数回の家庭訪問を含む対象者への継続的な関わりを通して普段の保健師活動を体験する「継続的家庭訪問」に取り組みます。学生

は対象者に寄り添いながら看護ケアを提供しつつ、研究者としての俯瞰的な視点や科学的な根拠に基づき、さまざまな関係者と協働して最適解を模索する方策を学びます。

### Research

#### どのような研究をしていますか？

「専門職の能力・技術の開発等に関する課題」（保健師による施策化・事業化、保健師の技術・暗黙知の解明）、「ライフステージとそれに関連する課題」（乳幼児の傷害予防、地域での認知症教育プログラム普及）、「実践の改善・ケアシステム構築に関する課題」（ICTを用いた保健師活動アルゴリズムおよび評価手法の開発）、「従来の枠組みに当てはまらない先端的な課題」（VRを用いた家庭訪問学習教材の開発）など、幅広い研究課題に取り組んでいます。

### Collaboration

#### 保健活動の現場とのつながりは？

文京区と共催で区内在住の高齢者を対象に、「東京大学ふみのみやこ倶楽部」として介護予防体操を実施し、保健師実習の健康教育の機会としても活用しています。また新型コロナウイルス感染症拡大時には、本専攻の教員・大学院生をいち早く文京区に応援派遣するとともに、データ解析などを通して業務改善に関する助言を行っています。地元地域で育てていただいた教育や研究の成果を、積極的に還元しています。

ひとこと

公衆衛生看護の実践は、走りながら解のない問いを解き続けるようなものです。常に皆で知恵を出し合いながら考え続けることが大切です。当教室では「リサーチマインドを持つ保健師」と「保健師マインドを持つ研究者」の育成を目指し、皆様のお力をお借りしながら地域看護学・公衆衛生看護学の発展に微力ながら貢献してまいります。

あなたの  
研究室を  
紹介して  
ください！

保健師ジャーナルでは、このページに登場して下さる研究室（保健師教育に関わる講座・分野・領域）を募集中です。研究室での保健師教育の特色や、研究活動、現場とのつながりをご紹介します。

応募方法 ● 電話、FAX、E-mail のいずれかにて編集室までご連絡ください。掲載分には医学書院特製図書カードを進呈いたします。

連絡先 ● 医学書院『保健師ジャーナル』編集室 ☎ 03-3817-5774 FAX 03-5804-0485 メール hokenshi@igaku-shoin.co.jp